

令和2年度



園だより



文京区立根津幼稚園

この一年を振り返って

園長 小岩井 聡

日に日に暖かさを増し、春の訪れを感じます。穏やかな日差しの中で遊んでいる子どもたちを見ると、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が発出されている最中だとは思えません。でも、それが現実です。この一年、私たちは目に見えない敵から命を守るために、様々な工夫をして、幼稚園教育を進めてきました。先月から日本でもワクチンの接種も始まりましたが、私たちにとってはまだ油断のできない状況が続いていることも確かです。みんなで、ここまで頑張ってきたのです。あと少しだけ気を緩めずに、頑張っていきましょう。

そのような状況下とはいえ、根津幼稚園として幼児教育の大切さを保護者の皆様にお伝えすることも大切な使命です。そのために、先日のねづっこ劇場では感染症対策を徹底しながら、またライブ配信（ほし組の森さんを中心としたおやじの会メンバーのご協力がなければできないことです。大変感謝申し上げます）という手段で子どもたちの育ちをご覧いただきました。

幼稚園の教育は、非認知能力を学び、身に付けることが大切だといわれています。非認知能力とは点数では表せない、スケールでは測れない、いうなれば目に見えない子どもたちの学びです。例えば、友達を思いやる気持ち、やさしさ、葛藤を乗り越える力、自分なりに目標をもち頑張る力、相手の楽しさや寂しさに共感する力などです。

また、幼稚園教育要領では、幼稚園での教育はその後の小学校以降の教育を見通しながら育みたい資質・能力を育むことが大切であると示されています。育みたい資質・能力として次の3つが挙げられています。「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」です。この3つが柱のように各校種を貫いているのです。幼稚園の時期は、小学校以降につながる心情・意欲・態度を、遊びを通じて培うと同時に、人としての生きる力を培う非認知能力の学びが大きいのです。

そういった視点で改めてねづっこ劇場を見ていただくと、分かりやすい、見栄えの良い劇をつくるのが活動の目的でないことは自ずとお分かりいただけると思います。

3歳児は3歳児なりに、みんなで表現をすることの楽しさ。友達と一緒に過ごす嬉しさ。ドキドキを乗り越えて楽しむ力などが育っていきます。4歳児は、お話の楽しさを友達と共有し、一緒に楽しむ力。感じたことを自分なりに表現する力、必要なものを考えてみんなでつくる楽しさ、友達が頑張っている時に応援してあげる気持ちなどを学んでいます。そして5歳児になると、友達とイメージを共有し、劇遊びを作り上げる中で、友達の表現に感動し、認め合う気持ち、頑張っている子を支えてあげるやさしさ、言葉を操って、ストーリーに合った言葉を選択し、セリフにしていく面白さ。キャラクターのイメージから、動き、表情、声色まで工夫して、それがみんなの劇となっていく喜び。時には意見が食い違うこともあります。いかに折り合いをつけるかという調整力。もちろん保護者の方に見せる嬉しさもあります。たくさんの拍手をいただくことで、自信にもつながっていきます。様々な感情体験の中で、生きる力の基礎となる大切なことを学んでいきます。

保護者の皆さんから、たくさんのご感想をいただきました。しっかりと受け止めていただいているご意見が多数あったことで、この一年間の集大成の姿が、皆様に伝わったことにホッとしています。

今年度、様々な状況の中、本園の教育活動にご理解とご協力をいただいた保護者の皆様、地域の皆様方に改めて感謝を申し上げます。また、未曾有のこの状況の中で根津幼稚園の教育をしっかりと行い、子どもたちの育ちを保障してきた担任教諭をはじめ幼稚園のスタッフの頑張りがあったことも、自画自賛にはなりますがこの場を通じて皆様にお伝えしたいと思います。

来年度も、どんな状況になろうと根津幼稚園は、保護者の皆様、地域の皆様、教職員が力を合わせて「チーム根津」として一丸となって頑張っていけるということ、この一年を通じて確信しております。一年間どうもありがとうございました。